

第6学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 本当の友だちとは 高学年2-(3) 信頼・友情
資料名 「いたづらがき」 (自作)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「友だちの気持ちを考え、互いに信頼し、学び合って友情を深め、友だちを大切にしようとする心情を育てる」ことを主なねらいとしている。

信頼・友情とは、互いが相手のことを考えた言動を心掛け行動することで、信じ合い、さらにその積み重ねによって友人として相手を思うことである。しかし、児童を取り巻く社会的風潮として、社会や他人のことを考えず、個人の利害損得を優先させる面があり、そのような環境の中で児童は、自分の欲求を満たすため友だちのことを考えた行動ができなかったり、友だちの人格を無視したりすることが時としてある。

そこで、日常の場面に潜む自分本意の行動が友だちを傷つけている事に気付き、友だちとのかかわり方を振り返らせ、友だちを大切にしようとする心情を育てることは大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は学級編制によって、特定の友だちとのかかわりから脱却し新たな友達関係をつくることのできている。学習中互いに教え合ったり、活動等では協力したりする姿も見られる。またアンケートでは学校が好きな理由として「友だちがいるから」「友だちと遊べるから」が多数を占め、学校生活において友だちの存在が大きいことが伺える。しかし、児童の様子から相手に対する強い口調や言動が見られ、仲の良い友だちとそうでない友だちとのかかわり方に違いが見られる。

そこで、このような時期に友だちとのかかわり方を見直し自分自身を振り返ることで、互いに信頼し友だちを大切にしようとする心情を育てることは意義深いと考える。

- 本資料は、「ぼく」が友だちが少なくあまり活発でない「のぼる」と遊んであげる場面から始まる。初めは楽しく過ごしているが、互いに似顔絵をかき出してから「ぼく」の気持ちに変化が現れる。周りの友だちにはやし立てられ、それにのせられた「ぼく」が「のぼる」の気持ちも考えず自分の欲求の赴くままに行動してしまい、「のぼる」を傷つけてしまうという話である。相手の気持ちを考えない行動が、相手を傷つけていることに気付くことができる資料である。

本時指導にあたっては、「ぼく」と「のぼる」の気持ちを考えることでねらいとする価値に迫っていきたい。導入段階では、友だちについて思っていることや感じていることを出し合い、自分が友だちに抱いている思いを再認識させ、資料へとつなげる。展開前段では、友だちにはやし立てられ「のぼる」をかいた似顔絵にいたづらがきを繰り返す「ぼく」の気持ちと、それを黙って見ているが我慢できなくなった「のぼる」の気持ちに共感させるために、役割演技を取り入れそれぞれの気持ちを考えていく。展開後段では、友だちを大切にしたりできなかったりした経験を振り返り、価値を内面的に自覚できるようにする。終末では、『ぬくもり』（「こわれかけたわたしの心」）の範読を通して、友だちを大切にしようとする心情を高め、今後の生活での価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

互いに信頼し、友だちを大切にしようとする心情を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第6学年〇組教室に於いて

5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

地域題材: ぬくもり

- 6 準備 資料「いたづらがき」、挿絵、道徳ノート

7 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 友だちについて思っていること, 感じていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちは大切。 ○ 困ったときに助けてくれる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">めあて 友だちとのかかわり方について考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちについて想起できるように, 友だちと活動している写真を提示する。
展 開 前 段	<p>2 資料「いたづらがき」を読んで, 話し合う。</p> <p>(1) 「のぼる君も笑っているし, 面白いから。」と夢中になってかき直している時の「ぼく」の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次はどこをかき直そうかな ○ みんなが笑ってくれている。楽しいな。 ○ のぼる君も笑っているし, もっとかこう。 <p>(2) 「やめてよ!」と大きな声で言っている時の「のぼる」の気持ちを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">のぼる君はどんな気持ちで「やめてよ!」と言ったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ なんでそこまでするの。 ○ 本当はいやなんだ。やめてよ。 ○ どうしてみんな止めてくれないの。 ○ もういい加減にしてくれよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読を通して, 資料の概要をつかませる。 ○ 「ぼく」と「のぼる」の気持ちを共感的に理解させるため, 「ぼく」と「のぼる」の気持ちを道徳ノートに書かせる。 ○ 「ぼく」と「のぼる」の気持ちを深く考えることができるようにするために役割演技を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 役割演技をより効果的に行うために, 演技の前に「ぼく」と「のぼる」の顔の表情を見童につくらせる。
展 開 後 段	<p>3 自分の生活を振り返り, 友だちを大切にできたりできなかつたりした経験を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 困っている友だちを助けることができなかつた。 ○ ドッジボールの時, 失敗した人を怒ってしまった。 ○ 困っている友だちに声をかけた。 ○ 勉強でわからないところがある友だちに教えてあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ねらいとする価値を内面的に自覚できるように, これまでの友だちとのかかわりを具体的に振り返り, その時の気持ちを考える。 ○ ねらいに対する正の面, 負の面の両面を出させるようにする。
終 末	<p>4 ぬくもり「こわれかけたわたしの心」を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ぬくもり「こわれかけたわたしの心」の範読を通して, 友だちを大切にしようとする心情の継続を図る。

